

報告2

ケニア訪問記

2月22日からぱれっとインターナショナルジャパン(PIJ)谷口代表に同行し、ケニアにあるティカ地域で貧しい子ども達の支援を行なっている、モヨ・チルドレン・センター(以下MCC)代表松下照美さんを訪問し活動を視察してきました。写真や映像で見たストリートチルドレンを目の当たりにして、衝撃を受けた事もありましたが、MCCの子ども達の笑顔に癒された1週間でした。

●初めて会ったMCCの子ども達

ジョモ・ケニヤッタ国際空港へは、松下さんが出迎えてくれました。ケニアの第一印象は暑く埃っぽく乾燥している国だと感じました。空港からMCCまでの車内にはエアコンはなく(後から聞いた話ではケニア人はエアコンを使わない人が多いそうです)窓からは埃と排気ガスが混じるなま温かい風、道沿いの店は色鮮やかな品物が陳列されていて刺激的でした。

MCCへ着くと子ども達は大歓迎、人懐っこい子ども達の笑顔に長旅の疲れも癒されました。早速持参したお土産を配りました。美しい写真のカレンダーやキャラクターのハンドタオルに歓声があがり、靴のサイズを試す子ども、大好きなおせんべい目当てにあちこちから手が伸びてきます。目をキラキラさせ美味しそうに食べる子ども達の姿は、悲惨な人生を生き抜いてきた子ども達だったとは想像も出来ません。

MCCの子ども達は学校へ通い自立へ向けてのサポートを受けています。同じ国に生まれ学校にも通えない、貧しい子

ども達にも教育や自立支援を促し日々活動されている松下さんとスタッフの力強い熱意を感じました。



【おせんべい、大好きです】

●MCCへやって来た兄弟

今年1月からMCCへ8歳と3歳の兄弟が入居しました。彼らには5歳の兄弟もいますが、今は寄宿制の学校へ行っています。シングルマザーの母親が亡くなり、叔母に引き取られましたが、叔母も自分の孫の面倒で手一杯なため行政へ相談。その後松下さんへ連絡が入りました。3兄弟の事を詳しく聞くために松下さんに同行し叔母に会いに行きました。

キャンドウトウのスラムにあるトタンで建てられている叔母の家は8畳程の広さで、暑さとアンモニア臭で気分が悪くなりそうでした。以前はこの場所で、3兄弟と叔母と叔母の孫が生活していました。母親には別れた夫との間に子供が4人、違う男性との間に生まれた3兄弟を妹に預け家を出て行き亡くなりました。3兄弟の父親は判りません。

同席した私は見聞きする内容にただ驚くばかりで、松下さんとスタッフの根気強く冷静に話を聞き対応する姿勢に、少しでも早く3兄弟と一緒に生活させて

あげたいと思う情熱を実感しました。

MCCに入居した2人の兄弟はとて愛らしく3歳の子は警戒心が強く、8歳の子は病気があり薬のコントロールが大変です。MCCではこの兄弟を入居させるにあたり、今までにない体制で取り組んでいます。毎日のスタッフミーティングでの確認や共有。行政との連携。松下さんとスタッフとの信頼関係とチームワークがあってこそ成り立っていると思いました。

●マゴゴニ農園

リハビリテーションセンター

ストリートチルドレンのドラッグ・リハビリテーションセンターとして、外務省「草の根無償」とクラウドファンディングとの支援によって建てられました。農園を囲む壁には支援者の名前が書かれ、一人一人に感謝の気持ちを伝えています。建物の建設工事のやり直しを何度も繰り返して来ましたが、現在は建物の殆どが完成し宿泊も可能になりました。川からの水を生活用水にするために、屋外に浄水槽を設置する支援活動も始まり、近隣へのシェアも考えています。ヤギやニワトリも飼い、スタッフのビクターさんとガシオ君が面倒を見ています。

ガシオ君は路上でシンナーを吸っていたストリートチルドレンでした。松下さんと出会いMCCへ入居中、何度も路上に戻りシンナーを吸っていましたが、今は農園で動物達と生活する事が彼にとって一番居心地の良い場所となっています。ガシオ君がシンナー中毒から離脱する時の壮絶な話を聞き、松下さんとスタッフが彼に寄り添い向き合い続けた日々の努力に感動し、頑張った彼を愛おしく思いました。マゴゴニ・リハビリ

テーションセンターが地域に根付き、ストリートチルドレン達を社会復帰に繋げる場所として、より一層のチャレンジに期待します。



【農園の壁には支援者の名前が書かれています】

●ケニア訪問での感想

6日間の訪問ではここに書き切れない程の場所に同行する事が出来、日本では考えられないストリートチルドレンの現実や経済的に貧しい人々が生活する光景を体感し衝撃を受けました。

松下さんがスタッフと共にストリートチルドレンへの支援を更に広げようとする、熱意や行動力に圧倒され、これからの自分には何が出来るのかを、改めて考えさせられた時間でした。

地元で暮らし地域の人々との繋がりを丁寧に築き、活動を構築させている松下さんとスタッフの姿は、ぱれっとの活動にも共通する部分であり、一人一人と向き合い根気強くじっくりと築いて行く「コミュニケーションの大切さ」は、現在私が携わっている業務への大きな学びになりました。また、今回PIJの活動に同行し、ケニアの今の状況を内外に発信する事は、ぱれっとスタッフとしての大切な役割だと思いました。

いつかケニアを再訪し成長したMCCの子ども達と再会出来る日を楽しみにしています。(事務局 西川寿恵)